

力進  
1738  
6止



ル 2  
2985  
10

西洋事情外編卷之三

人民ノ教育

福澤諭吉 纂輯

人ノ生、ヤ無知ナリ其コレヲ知ルモノハ教ニ  
由テ然ラシムル所ナリ子生ルレハ父母コレニ教  
ヘ先ツ其知識ヲ開テ所得甚ク多シ既ニ父母ノ教  
導ヲ受レハ次テ又學校ニ入ラサル可ラス故ニ天  
下ノ急務ハ學校ヲ設ケテ之ヲ扶持スルヨリ先  
ルハナシ蓋シ人民、幼ニシテ學ハス長シテ知識  
ケレハ輕舉妄動前後ヲ顧ミズ遂ニハ罪科ニ觸レ

西洋事情外編 卷三

人間ノ交際ヲ害スルコト多シ  
人ノ知識ヲ教導スルトモ必シモ之ニ由テ其徳證  
ヲ養フ可キニ非ラス古來聰明穎敏ノ譽アル學者  
ニシテ却テ大惡無道ナレモ少ナカラス然レモ  
教育ノ法宜シキヲ得テ徳行ニ進ミ聖教ニ化スル  
所ハ亦以テ盛徳ノ士ヲ出メス可シ又世間ニ惡事  
ノ惡タルヲ知テ故サラニ之ヲ犯ス者アラハ速ニ  
罰シテ其罪ヲ假スコ勿カル可シ斯ノ如キ輩ハ假  
令ニ罰ヲ蒙ルトモ其罰ノ至當ナルヲ甘シテ罪ニ  
伏シ既往ノ過ヲ改ルヲ知ル可シ然レモ人ニ知識

返シクシテ是非曲直ノ辨別ナキ者ヲ罰スルニ至  
テハ其處置甚ク難シ其罪ヲ見テ直ニ之ヲ罰スル  
ヨリモ若カズ其人ヲシテ先ツ是非ヲ辨シ罪ニ陷  
ルコト勿ラシメレニハ是レ所謂真ノ刑法ナリ人ヲ  
罪スルヨリ人ヲ教ユルノ便利ナルヲ知テハ何ス  
レゾ其人ヲシテ無知ナラシムルヤ教ヘサル民ヲ  
罰スルハ慘酷ノ甚シキモノト云フ可シ  
法律ノヨク行ハル、政府ニ於テハ國ニ罪人アレ  
ハ之ヲ捕ヘ夜盜、拐兒、強盜ノ如キモ一度ニ縲綆ニ  
就テ其罪状明白ナル所ハ之ヲ刑ニ處シテ國

法律書 卷三 二

明ニス可シト雖氏國ニ無知文盲ノ人民多キハ其  
害舉テ云フ可ラス此輩ハ是非ヲ別タス曲直ヲ辨  
セス國法ニ從テ私財ヲ保ツ所以ノ理ヲ知ラスシ  
テ一旦國ニ騷亂アレハ忽チ其釁ニ乘シテ雲集蜂  
起シ法ヲモ畏レス人ヲモ憚カラス慘酷兇惡至ラ  
サル所ナレ其一例ヲ舉テ云ハレニ昔日佛蘭西騷  
亂ノ時ニ恐ル可キ暴行ヲ為セシ輩ハ皆無學文盲  
放盪無賴良政府ノ下ニ居テハ活計ヲ營ムル能ハ  
サル者ナリ  
救窮ノ為ニ多ク金ヲ費スモ其原因ヲ尋レハ皆下

民ノ無知無識ナルニ由テ然ラシムルモノナリ人  
ニ知識ナケレハ必ス遠キ慮ナレ遠キ慮ナキ者ハ  
目前ノ慾ニ逐ハレテ遂ニハ其惡行名状ス可カラ  
サルニ至ルアリ第一養生ノ法ヲ知ラス飲食ヲ  
節スルヲ知ラス人ニ交ルノ道ヲ知ラス廉耻ノ  
義ヲ知ラス以テ世間ノ風俗ヲ亂タリ共ニ貧窶ノ  
苦界ニ陷入ルモノ少ナカラス  
人ニ知識ナケレハ勤勞ノ真理ヲ知ラスレテ貧窮  
ニ困シムル甚クシ或ハ力役スルニ似タルヲモア  
レ氏其方向ヲ誤テ無理ノ道ニ由ルカ故ニ勞

功ナシ或ハ又事實其土地ニ居テ活計ノ道ナシ  
他國ニ行テ之ヲ求メ自カラ安身ノ方便ナキニ非  
サレ氏尚奮發ノ意ナクシテ懶惰ニ安シ甘シテ貧  
窮ニ困シム者少ナカラス即チ蘇格蘭ノ西部ニ住  
居スル野民ノ如キ者はナリ此野民ノ無知ナル  
モ亦甚クシテ常ニ貧困ニシテ或ハ餓死スルモノ  
アリ然ルニ他所ヨリ此貧民ヲ雇テ仕役セント欲ス  
ル者多シト雖氏無知ノ致ス所如何トモス可ラス  
尚郷里ヲ離ル、一能ハス蠢爾トシテ家ニ止リ終  
歲貧窶ノ苦ヲ嘗メリ

古來種々ノ新發明ニ由テ世間ノ裨益ヲ成セリ  
ハ舉テ云フ可ラス然ルニ無知頑陋ノ輩ハ此發明  
工夫ヲ見テ奇異天怪ノ如クニ思ヘリ小民徒黨ヲ  
結テ精巧ナル機關ヲ毀テ或ハ其發明家ノ功德ヲ  
謝セシテ却テ之ヲ凌辱セシテ屢コレアリ是レ  
皆無知文盲ノ然ラシムル所ナリ此輩ハ固ヨリ機  
關ノ何物タルヲ知ラスシテ只管コレヲ有害無益  
ノ物ト視做シ之カ爲世間一般ノ恩人タル發明家  
モ害ヲ被リシト少ナカラス昔日佛蘭西ノ首府  
リスニコレ病ノ流行セシ都下ノ衆醫皆心

ヲ盡シテ之ヲ救ハントセシニ小民等ハコレヲ  
ノ何物タルヲ知ラズレテ妄ニ醫師ヲ咎ノ醫師毒  
藥ヲ以テ人ヲ害スルトテ兇人ノ如クニ視做シ屢  
之ヲ犯シタルアリ又醫術研究ノ為ニ死骸ヲ解  
剖スルヲ見テ無知ノ小民ハ之ヲ醫生ノ罪トセリ  
新式ノ工夫世ニ行ハレ或ハ時物ノ流行變換スル  
ニ從テ人モ亦其職業ヲ改メサル可ラス此時ニ當  
テ事物ノ理ニ通シ器械學ノ趣旨ヲ知ルモノハヨ  
ク時變ニ應シテ其業ヲ改ルヲ得ルト雖モ無知  
文盲ナル者ハ然ラス旧業ヲ固守シテ變通ヲ知ラ



ス坐シテ他ノ新工夫ノ為ニ窘メラルハノモ抑ス  
ル愚夫ノ意ニハ回来我守ル所ノ職業ノ外天下ニ  
求ム可キ活計ノ道ナシト思フベケレモ若シ此輩  
ヲレテ稍物理ニ明カナラシメテハ活計ノ求テ得  
易スキヲ知リ曰テ棄テ新ニ就キ却テ貧困ノ苦ヲ  
免カル可シ又之ヲ一國ノ為ニ計ルモハ救窮ノ費  
ヲ省クノ一大助トモナル可シ  
稍教育ヲ被リタル人ハ知識ノ貴キヲ知リ知識ヲ  
養フ為ニハ心カヲ勞シ財物ヲ散スルトモ之ヲ務  
ムルノ志アレモ愚痴蒙昧ノ輩ハ絶テ此味ヲ知

人ヲ教育シ知識ヲ養フ等ノ事ニ至テハ恬  
テ心ニ關スルコトナシ是皆無知無學ニ由テ致ス所  
ノ大害ナリ愚夫愚婦ノ子ヲ棄テ、教ヘサル有様  
ヲ見ルニ其心事快ク可シ又憎ム可シ帝ニ教育ノ  
趣意ヲ知ラスシテ躬カラ心カヲ勞セサルノミナ  
ラス甚シキハ他ヨリ厚意ヲ以テ我子弟ヲ教ユル  
者アルモ之ニ對シテ其恩ヲ謝スルコトヲモ知ラサ  
ル者アリ故ニ一國人民ノ中ニテ知識ナキモノハ  
世ノ教育ヲ助クルニ非ラスシテ却テ之ヲ妨ル者  
ト云フ可シ

石ノ次第ニ付キ貪ニシテ知ナキ者ノ子ヲ教育ス  
ルノ一事ハ止ヲ得スシテ他人ノ任ト為レリ然レ  
民人モ亦甘シテコノ任ヲ引受ケ其煩勞ヲ厭フ可  
ラサルノ理アリ從來窮民ヲ救ヒ罪人ヲ制スル為  
ニ稅ヲ納ルノ高ハ既ニ已ニ夥シ今人民教育ノ為  
ニ費ス所ノ金ハ人ヲシテ貧困ニ陥ルコトナク又罪  
惡ヲ犯スコトナカラシメシトスルモノニテ所謂禍  
ヲ未然ニ防クノ趣意ナレハ既ニ貧シキ貧人ヲ救  
ヒ既ニ罪アル罪人ヲ制スル為ニ稅ヲ納ルヨリモ  
其金ヲ費スノ功德遙ニ優ル可シ故ニ國中ニ人民

教育ノ入費ヲ出サシムルハ之ヲ貪ルニ非ラズ  
 却テ其税額ヲ減少セシカ為ナリ且右ノ如ク教  
 育ノ為ニ税ヲ集メテ之ヲ用ユル所ハ惡人ヲ罰ス  
 ル為ニハ非ラスシテ人ノ善ヲ助ケ人ノ幸福ヲ成  
 ス為ニ費スカ故ニ仮令ニ或ハ名實齟齬スルコト  
 ルモ其税ヲ出タシタル者ノ身ニ於テ之ヲ考フレ  
 ハ金ヲ費ス所以ノ趣意ヲ信シテ自カラ心ニ慊キ  
 コアル可シ大凡人情ニ於テ人ノ惡ヲ罪スルヨリ  
 モ人ノ善ヲ見ルヲ好マサルモノナシ  
 或人ノ云ク國民ヲシテ強ヒテ其子弟ヲ教育セシ

メントスルハ即チ人ノ家事私用ニ關係シテ之ヲ  
 妨ルコトナレハ其處置宜シキヲ得ルモノニ非ラス  
 ト然レド此說甚ク非ナリ政府タルモノハ常ニ正  
 道ノ行ハルヤ否ヲ察シ國民ノ安寧ナルヤ否ヲ  
 見テ若シ然ラサル所アレハ則チ國法ヲ以テ之ニ  
 關係シテ其處置ヲ施サ、ル可ラス罪人ヲ罰スル  
 ノ法モ語ヲ易ヘテ之ヲ云ハ、人ノ私事ヲ妨ルヨ  
 リ他ナラス然レド今一家族ノ内ニ罪ヲ犯ス者ア  
 リテ子ハ父ノ為ニ匿シ父ハ子ノ為ニ匿サレトス  
 ルモ法ニ於テ宥ス可ラス故ニ云ク政府若シ人ヲ



罰スルノ權アラハ亦人ヲ教ユル權ナカル可ラハ  
 是レ古今ノ金言ナリ刑罰ハ人ノ身ニ苦痛ヲ受  
 ケシムルヲナレ凡世間一般ノ爲メヲ謀レハ尚之ヲ  
 施行シテ妨ナシ況ヤ教育ハ其人ヲ益シ其人ヲ利  
 スルノ趣意ナレハ之ヲ行フニ於テ何等ノ故障ア  
 ル可キヤ余輩斷シテ云フ若シ世間一般ノ爲メニ斯  
 ル大利益ノ事アラハ仮令ヒ人ノ身ニ苦楚疼痛ヲ  
 覺ヘシムルトモ必ス之ヲ行ハサル可ラス  
 是故ニ國民教育ノ法ヲ設ルノ一事ハ人ノ不徳ヲ  
 矯正シ人ノ貧困ヲ救フ爲メノモノナレハ其教育ヲ

受ル者ニ利益アルノミナラス又此法ヲ設ル爲メニ  
 金ヲ費ス者モ自カラ利スル所アル可シ然レ凡一  
 丁字ヲ知ラサル小民ニ至ルマテモ盡ク政府ノ力  
 ヲ以テ教育セルトスルカ如キハ事實行ハレ難キ  
 一ナルカ故ニ政府ハ唯學校ヲ設ケテ諸塾ノ教師  
 ト爲ル可キ人物ヲ養ヒ其他教育ノ事ニ付キ平人  
 ノ辨シ難キ尺費ヲ出タスヲ以テ其任トセリ  
 人トシテ高上ノ學ニ志シ其極度ニ達スル者アレ  
 之ニ由テ世上一般ノ裨益ヲ爲ス少ナカラス  
 譬ヘハ爰ニ一少年アリ其天稟事ヲ成ヌ可キ器量

アソテ大業ヲ企テ敢テ辛苦ヲ嘗メント欲スレド  
其素志ヲ達セシカ爲ニハ書籍ヲカル可ラス學術  
用ユル器械ヲカル可ラス其他種々ノ物品ヲ購  
フカ爲其欠費頗ル多シ但シ是等ノ物品ヲ求メテ  
自己ノ便利ヲ達シ自己ノ奢侈ヲ恣ニセントスル  
ノ趣意ナレハ他ヨリ之ヲ助ク可キノ理ナシト雖  
氏其一身ノ俸養ハ千辛萬苦モ敢テ憚ル所ナシト  
テ自カラ決心セルモノナレハ其心事實ニ憐ム可  
シ然ルニ古來富豪ノ家ニ生レ百般ノ需用不自由  
ナクシテ斯ル大志ヲ抱ク者ハ甚々稀ナリ少年ニ

シテ大業ヲ企ル者ハ多クハ父母ノ助力ヲ得サル  
貧家ノ子ナレド其志ヲ達スルニ至テハ國中一般  
ノ爲ニ大裨益ヲ起スカ故ニ國中ノ人モ亦平生ヨ  
リ此寒書生ヲ助ケサル可ラス即チ國ニ大學校等  
ノ設アルモコノ趣旨ナリ大學校ノ内ニハ書庫ア  
リ博物府アリ又窮理學ニ用ユル器械等モ備ハリ  
テ寒貧書生ト雖モ自由ニ此物品ヲ用ヒテ志ス所  
ノ學業ヲ研究ス可シ大凡人民教育ノ爲ニ右等ノ  
法ヲ設ケ多ク金ヲ費シテ其處置ヲ誤ルナクハ  
一國ノ繁榮ヲ致スヲ更ニ疑ヲ容ル可キニ非ラス

經濟の總論

一、條々ハ專ラ人間交際ノ道ヲ明カニシ良政府  
 主宰ヲ説タルモノニテ稍經濟ノ論ニハ遠サカ  
 リテ之ヲ人間交際ノ學トモ謂フ可シ然レ他  
 又種々ノ事情アリテ其處置宜シキヲ得レハ自カ  
 ラ人間ノ交際ヲ助ケ良政府ノ基ヲ開キ以テ世人  
 ノ幸福ヲ増ス可キモノ少ナカラストノハ前既  
 ニ之ヲ記シタリ  
 今此条目ニ於テハ經濟ニ關係セル事ヲ論ス可シ  
 交際ノ學ト經濟ノ學トハ其關係甚々大ナリト雖

氏一般ニ之ヲ論スレハ交際學ノ大趣意ハ事物ノ  
 條理ヲ正タシ是非ヲ明カニシ人々ヲシテ互ニ相  
 親愛シ互ニ相敵視スルヲ勿ラシムルニ在リ經濟  
 學ノ旨トスル所ハ人間衣食住ノ需用ヲ給シ財ヲ  
 増シ富ヲ致シ人ヲシテ歡樂ヲ享ケシムルニ在リ  
 往古ノ碩學始メテ經濟ノ事ニ付書ヲ著シ之ヲ富  
 國論ト名ケリ其説ニ據レハ人ハ家法ヲ節シテ富  
 ヲ致ス可キカ故ニ之ヲ大ニシテ一國ニ施スルハ  
 亦以テ一國ヲ富ヲ成ス可シト云ヘリ然リト雖  
 氏世ノ學者經濟ノ學ハ唯富ヲ致スモノト思ヒ或

ハ富ヲ致シテ之ヲ守ル所以ノ趣意ナリト思フハ  
ナル誤解ナリ抑經濟ノ大趣意ハ人ノ作業ヲ束  
縛スルニハ非ラスシテ却テ其天賦ニ從ヒ自由ニ  
其力ヲ伸ヘシムルモノナリ故ニ其議論人間交際  
ノ事ヲハ後ニシテ專ラ人間自由ノ所業ヲ抑制シ  
テ弊害ノ生スル所以ヲ明カニセリ今此編ニ於テ  
ハ交際ノ議論ヲ終テ經濟論ニ移ラントスル所ナ  
レハ其趣旨ノ詳ナルヲ論スルト左ノ如シ  
「レポリチカルエコノミ」ト經濟トノ字ハ其字義ヲ以  
テ事實ノ義ヲ盡スニ足ラズ「レエコノミ」トハ希臘

ノ語ニテ家法ト云フ義ナリ家法トハ家ヲ保ツノ  
規則ニテ家内百般ノ事ヲ整理スルコトナリ家事ヲ  
整理スルノ術ハ無益ノ費ヲ省クヲ以テ大眼目ト  
スルカ故ニ「レエコノミ」ノ文字ハ唯質素儉約ノ義  
ニノミ用ユルコトアリ上ノ「レポリチカルエコ」ノ字ハ國ト  
云ヘル義ナレハ此二字ヲ合セテ「レポリチカルエコ  
ノミ」ト云フハ唯國民家ヲ保ツノ法ト云ヘル  
義ヲ成スノミ  
經濟ハ畢竟一種ノ學文ニテ之ヲ法術ト云フ可ラ  
スマツコルロック氏云ク經濟トハ物ヲ産シ物ヲ製シ

物ヲ積ミ物ヲ散シ物ヲ費スニ其紀律ヲ設ル所以  
學文ニテ即チ其物トハ或ハ必用ナル物アリ或  
ハ便利ナル物アリ或ハ人意ヲ悅ハシムル物アリ  
テ何レモコレヲ賣買シテ價アルモノナリト又或  
人ノ説ニ此學ハ資財ノ事情ヲ説キ之ニ由テ生ス  
ル所ノ物ト又之ヲ分配スル法方トヲ論スルモノ  
ナリト云ヘリ  
紙上ノ議論ヲ以テ此學ノ趣旨ヲ辨セントスルモ  
初心ノ輩ニハ容易ニ了解シ難キカ故ニ學者若シ  
十分ニ其要訣ヲ知ラント欲セハ先ツコレニ從事

シテ下學上達次第ニ其議論ノ貴キヲ知リ次第ニ  
其佳境ヲ探ル可シ然レハ此學ニ入門スル者ハ預  
メ學文ノ範圍ヲ知り其議論ノ及フ所ノ境界ヲ察  
セサル可ラス若シ然ラザルハ此學文上ニ關係  
セシ事件ト思フモノモ書中ニ於テハ事實其議論  
ナクシテ之カ爲學者ノ望ヲ失スルコトアル可ケレ  
ハナリ抑經濟學ノ主トスル所ハ人間需用品ノ状  
態ヲ説キ之ヲ採用スル法ヲ明カニシ私有品ノ増  
減スル所以ノ理ヲ論スルノニ蓋シ一身ノ徳ヲ明  
カニシ人ニ交ルノ道ヲ修ルカ如キハ元來聖教道

德政治學ノ關係スル所ニテ經濟學ニハ之ヲ議論  
スルヲナシ

右ノ如ク學科ニ區別アル所以ヲ明カニセシ為爰  
ニ一例ヲ舉ルト左ノ如シ經濟學ノ論ニ云ク力ヲ  
以テ人ヲ束縛シ強クテ之ヲ役スルモノハ其功粗  
ニシテ駁ナリ不羈獨立躬カラ富ヲ致スノ趣意ヲ  
以テ人ヲ鼓舞シ自由ニ之ヲ役スレハ其功精ニシ  
テ美ナリ故ニ賣奴ハ唯甘蔗ノ田ヲ芸リ烟草ノ葉  
ヲ抄テ之ヲ揃ル等ノ如キ粗糲ノ業ニノミ用ユ可  
キナレバ蒸氣ノ器械ヲ製シ精巧ノ機關ヲ取扱フ

等ノ事ニ至テハ賣奴ノ能スル所ニ非ラスト之ニ  
由テ考フレハ經濟學ノ論ハ唯人ヲ自由ニ役シテ  
高上精美ノ功ヲ成ヌ可キ所以ヲ説クノミニ賣奴  
ノ惡法ヲ誅謗シ其天理人道ニ背ク所以ヲ辯論ス  
ルハ經濟學ノ趣旨ニ非ラス  
又經濟學ニ於テハ搏奕打賭ヲ以テ人間ニ益ナキ  
モノトシ其議論ニ云ク骰子ヲ投シ競馬ニ賭シテ  
錢ヲ得ルトモ事實世ニ物ヲ生スルヲナシ斯ク錢  
ヲ得シ者ハ他ノ便利ヲ達スルヲ醫農工商ノ如ク  
ナラサルノミナラス金ヲ得シカ為不良ヲ為シ唯

聖事十卷三

彼 = 損シテ是 = 得ルノミ且其搏奕打賭ヲ行フノ  
間ハ無益 = 時ヲ失ヒ無益 = 心カヲ勞シテ其損亡  
タルヲ甚ク大ナリト經濟家ノ所論ハ唯斯ノ如キ  
ノミ搏奕打賭ノ惡事タル所以ヲ辨シ人心ノ非ヲ  
正タスノヲハ聖教道德ノ學科ニ讓テ之ヲ論スル  
ヲナシ  
右ノ如ク經濟學ト他ノ學科トノ分界ヲ明カニス  
ルニハ經濟ノ實情ヲ知ルヲ緊要ナリト雖先  
是學ニ入ルノ門ヲ求メ次第ニ其階梯ヲ歷ルニ非  
ラザレハ樓閣ニ登テ真境ヲ見ルヲ得ヘカラス學

者若シ是道ニ從事シテ漸ク其真味ヲ嘗ルニ至ラ  
ハ果シ大ニ發明スルコトアル可シ即チ人ニハ一種  
天賦ノ性情アリテ今一方ヨリ直ニ其情實ニ就テ  
之ヲ見レハ褊小ノ私慾ニテ甚ク賤ム可キニ似  
タレ其性情ノ自然ニ從ヒ廣ク人間ノ交ヲ成セ  
ル景況ヲ察スレハ即チ此性情ハ人ヲシテ其安寧  
幸福ヲ進メ至善ノ德誼ニ達セシム可キ天與ノ賜  
ト云フ可シ譬ハハ物ヲ買ヒ物ヲ賣ルノ一事ハ元  
利ヲ射ルノ欲心ニ出テ其趣意甚ク鄙陋ナルニ似  
タレ其賣買ノ道ハ全世界中ノ欠乏品ヲ給シ有餘

聖事十卷三

西

不足ヲ平均スルノ方便ナリトシテ之ヲ考フレハ  
帝ニ天賜ノ物品ヲ海内ニ分布シテ人ノ便利ヲ達  
スルノミナラス其物品ニ藉リテ世ノ文明開化ヲ  
助ケ人ノ知識見聞ヲ博クシ太平無事ニシテ人類  
ノ交ヲ親シカラシムルニ足ル可シ  
世界萬有ヲ察スルニ日月星辰ノ旋轉スルアリ動  
物植物ノ生スルアリ地皮ノ層々相重サナルアリ  
ト雖各一定ノ法則ニ歸シテ嘗テ其功用ヲ錯ル  
トナキハ實ニ驚歎ニ堪タリ抑經濟ノ學ニ於テモ  
亦一定ノ法則アルト他ニ異ナルトナシ其定則ノ

一斑ヲ窺フハ或ハ字典アルニ似テ之ヲ名状ス  
ルト甚ク難シト雖凡合シテ一躰ト爲シ其全璧ヲ  
見レハ至善至美盡サ、凡所ナシ故ニ是學モ猶他  
ノ生物論地質論本草學ノ如ク共ニ是レ地球上ノ  
一學科ナリト雖凡其理ヲ窮ムニ至テハ亦以テ造  
化靈妙ノ仁徳ヲ窺ヒ見ルニ足レリ右ノ如ク經濟  
學ノ定則ハ元々人造ニ非ラス又人意ヲ以テ之ヲ變  
易改正ス可キモノニモ非ラサレハ人或ハ問ヲ發  
スル者アラン何等ノ趣意ヲ以テ是學ヲ研究スル  
ヤト余答テ云ハレ唯其定則ヲ知テ之ニ從ハシカ



為ナリ譬へハ人身ハ天然生理ノ定則ニ從テヨク  
其生ヲ保テ無恙健康ナルヲ得ルモノニテ其定  
則ハ人ノ意匠ヲ以テ變易改正ス可キニ非ラス然  
レ氏人トシテ人身窮理ヲ研究スルノ趣意ハ何ソ  
ヤ唯其定則ヲシテ人身ノ内ニ行ハレシメ其作用  
ヲ逞フセシメテ天然ヲ妨ルコト勿カラレカ為ナリ  
故ニ云ク經濟學ヲ研究スルハ人身窮理ヲ學フノ  
趣意ニ異ナラスト  
人心若レ禽獸ノ如クニシテ是非ノ別ヲ知ラズ唯  
天性ノ慾ニ從テ事ヲ為スモノナラハ定則ヲ設ケ

テ之ニ從ハシメレトスルモ無益ノコトナレ氏人ノ  
事ヲ為スヤ必ス思フテ然ル後ニ之ヲ行フモノナ  
リ或ハ又其コレヲ行フノ間ニ自然ノ定則ヲ誤解  
シテ事ヲ錯ルアリ或ハ心ニ知テ故サラニ法ヲ犯  
スアリ今、人身窮理ノ定則ヲ了解スル者ハ空氣ノ  
閉塞、汚穢ノ蒸發、不良ノ食物等ヲ以テ疾病ノ原因  
トシテ之ヲ避クルコトヲ知レリ經濟家モ亦人間ノ  
衣食住ヲ整理シ人ヲシテ安樂ナラシムル所以ノ  
定則ヲ察シテ若シ此定則ヲ妨クルモノアレハ其  
妨害ヲ除クコトヲ知レリ殊ニ人ノ上ニ立テ衆ヲ御

スル者ニ於テハ此定則ヲ知ルト最モ緊要ナル一  
事トス譬ヘハ世ニ暴君アリテ專ラ私慾ヲ恣ニシ  
其國ノ諸港ヘ臺場ヲ築テ外國人ノ來ルヲ防キ我  
國人ヲシテ他ニ交リ有餘不足ヲ貿易スルトヲ禁  
シナハ一國ノ窮スルトモ亦甚シカル可シト雖モ  
仁君代テ出レハ必ス此妨害ヲ除キ貿易ノ法ヲ立  
テ、國民ヲ塗炭ニ救フトアル可シ是即チ經濟學  
ノ然ラシム所ナリ但シ經濟學ノ趣旨ハ賣買ノ道  
ヲ保護シ之ヲ鼓舞シテ世ノ貿易ヲ盛ナラシムル  
所以ノ理ヲ論スレモコレヲ實地ニ施スノ處置ニ

至テハ政治學ノ關ル所トセリ  
經濟ノ定則自カラ世ニ行ハル、所以ノ理ヲ說明  
セシカ為、二箇条ノ例ヲ示スト左ノ如シ但シコノ  
事ハ物品ノ需要ト供給トニ關係スル箇条ナレハ  
其詳ナルハ下編ニ記ス可シ即チ其一例ハ龍動府  
ナリ龍動ノ人口二百萬有余一日ニ費ス所ノ食物  
牛三百頭、羊二千百二十六、羊仔七百、豚仔、數  
モ之ニ稱フ、莖餅十七萬五千三百五十、クワルトル  
一、グソルトルハ、牛酪六千二百、ボシ、乾牛酪七千  
四、ボシト、當ル、牛酪六千二百、ボシ、乾牛酪七千  
ボシト、牛乳二萬七千五百三十四、ガルロ、シ、ガ  
ハ

二升四合 ナリ 仮ニ一日此諸品不足レテ其半量ヲ  
減シ或ハ其三分一ヲ減スルニアラハ市民ノ困苦  
ハ固ヨリ論ヲ俟タス之カ為甚シキ混乱ヲ生ス可  
シ然レモ古來嘗テ斯ル事變ノ起リシトナク市民  
ニ於テモ亦斯ル事變ノ起ル可シトテ未來ヲ慮カ  
ルモノモナク安シテ生ヲ送レリ朝第八時ニ起テ  
戸ヲ開ケハ正シク其時刻ヲ違ヘスシテ蒸餅ノ暖  
ナルヲ齋ヲシ來ル者アリ若シ然ラサレハ則チ戸  
外ヲ出ルト數十歩ニシテ之ヲ買フ可シ蓋シ其蒸  
餅ヲ作ル者ハ曉第四時ヨリ起キ麵粉ヲ調和シテ

火ニ上セ第八時ニ當テ暖餅正ニ製了レ以テ他人  
ノ意ニ適セシメレトテ勉ムモノナリ蒸餅ヲ製  
スル者ハ麵粉ヲ買ヒ麵粉ヲ磨スル者ハ麥ヲ買フ  
其麥ハ或ハ英國ニ生レ或ハ亞米利加ニ生レ或ハ  
黒海ヨリ來ルモノアリ或ハ北海ヨリ來ルモノア  
リ又砂糖ヲ買フハ蒸餅ヲ買フヨリモ容易ナレモ  
其由テ來ル所ヲ尋ルニ黃道以内熱帶ノ地方ニア  
ル黒奴ノ耕ヒテ製シタルモノナリ茶ハ一万里外  
ノ支那國ニ生シ之ヲ養ヒ之ヲ采リ之ヲ撰ヒ之ヲ  
製スル者ハ其國內ノ人種ナリコノ名品ヲ遠ク我

國ニ送リ吾人ノ日用ニ供スル其品ヲ用ヒテ其  
人ヲ知ラス支那國內地ノ風俗ハ未タ人ノ詳ニセ  
サル所ニテ其土人ノ有様ヲ見ハ一場ノ奇觀トモ  
云フ可キ程ノナリ故ニ今龍動ノ住人一名ヲ見  
テ其一日ニ飲食スル所ノ物ヲ検査シ其由テ來ル  
所ヲ尋レハ唯一人ノ飲食ヲ給スルカ為ニモ數千  
万ノ人負全世界中ノ各處ニ布在シテ各一班ノ用  
ヲ達セリ其事情ヲ譬ヘテ一ノ機關トセハ昌大精  
巧ノ妙機ト云フモ帝ナラス豈人カヲ以テ整理ス  
可キモノナラレヤ然リ而メ龍動府ノ政治ヲ反顧

スルニ其政治ノ趣旨ハ府内物品ノ需要ヲ助ケ勸  
ルニモ非ラス亦其供給ヲ制スルニモ非ラス往  
止メス來テ防カス唯人間自然ノ勢ニ任スルノミ  
裁判局ヲ建テ市中ノ取締ヲ設ケテ人命ト私財ト  
ヲ保護シ市民相對ノ約條ヲ固クスル為ニハ官府  
ノ法ヲ以テ之ヲ維持シ人ノ往來ヲ便利ニスル為  
ニハ道ヲ作テ常ニ之ヲ補理シ商賣船ヲ陸ニ近ツ  
ケ荷物ノ積卸ヲ便利ニスル為ニハ船入ト波戸場  
トヲ設ケ河ニハ舟ヲ浮フ可ク陸ニハ車ヲ通ス可  
ク各其處置ヲ爲セリ是等皆貿易ノ道ヲ制スルノ

趣旨ニ非ラス唯貿易自然ノ道ニ從テ自由ニ事ヲ  
成ス可キ為ノ余地ヲ與フルノミ  
前条所記ノ第二例トシテ今爰ニハ莫太ノ人負ヲ  
集メ人カヲ以テ其需要品ヲ給セントセシ一大事  
件ヲ記ス可シ大凡古來世ニ英傑少テカラスト雖  
氏斯ル大事件ヲ企ツ可キ才幹ヲ抱キ且ツ其事ヲ  
成ス可キ威力アリシ者ハ第一世拿破崙ノ石ニ出  
ツルモノナカル可シ千八百十二年拿破崙五十五万  
ノ兵ヲ卒ヒテ魯西亞ヲ攻メシ其兵ヲ分テ三大  
隊トナセリ故ニ其人負ノ相合集セル地ニ稍廣ク

シテ龍動府ノ人戸稠密ナルカ如クナラス此大兵  
ニ食糧ヲ給スル為ニハ盛ニ制度ヲ建テ牛羊ヲ逐  
フ者アリ之ヲ屠ル者アリ麵粉ヲ磨スル者アリ蒸  
餅ヲ焼ク者アリ炊夫厨人備具ヒサルハナシ之ヲ  
指揮スルニハ先ツ總督數名ヲ命シ次ニ附屬士官  
ヲ從カヘテ各其職掌ヲ盡サシメ書記官ハ以テ出  
納ヲ記シ監察ハ以テ將士ノ邪正ヲ糾シ一切ノ法  
令嚴整ナラサルハナシ實ニ此一舉ニ於テハ拿破  
崙モ生涯ノ才カヲ揮ヒシモノト云フ可シ然ルニ  
軍令ノ嚴整既ニ是ノ如シト雖モ尚以テ大兵ヲ養

西洋... 三

フニ足ラス兵卒ノ内過半ハ未タ魯西亞ノ國境ニ  
入ラスシテ先ツ食料ニ窮シテ進ムヲ能ハス其進  
テ境ニ入リシ者ハ數日ニシテ餓死スル者アリ或  
ハ飲食多キニ過キテ食傷スル者アリ右ノ次第ヲ  
以テ兵糧ノ事ニ任シタル者ハ嚴罰ヲ蒙リテ縊殺  
セラル、モノモアリ射殺セラル、モノモアリシ  
ト雖氏遂ニ食料ノ過不及ヲ制シテ諸隊一様ニ及  
ホスト能ハサリシト云是即チ人爲ノ處置ハ以テ  
自然ノ商賣ニ及ハサル所以ナリ  
蘇格蘭ニテ牛羊ヲ飼フ者ハ深山幽谷ヲ越ヘ龍動

ノ市ニ來テ之ヲ賣ル、其途中最モ謹慎ヲ加ヘソ  
其故ハ何ソヤ牛羊ヲ守護スルハ即チ自己ノ利益  
タレハナリ拿破崙ノ軍ニ從テ牛羊ヲ逐フ者ハ然  
ラス之ヲ逐フト身軀疲勞シ或ハ連日ノ煩ニ倦ム  
氏ハ乃チ私ニ之ヲ殺シテ路傍ニ棄テ其腐敗スル  
ヲモ顧ミスシテ去ルモノ少ナカラサルニ其場所  
ヲ距ルト僅カニ數十里ノ處ニハ兵卒皆飢餓ニ苦  
ミ日夜牛羊ノ至ルヲ待テ殆ト垂死ノ時ナリ又軍  
隊ノ此處ニハ山海ノ珍味ヲ連子テ飲食流ル、カ  
如クナルニ彼處ニ在テハ拿破崙ノ愛將ト雖氏飢

渴ヲ免カレサル者アリ此大行軍ニ由テ佛兵ノ利  
ヲ失ヒシハ世人ノヨク知ル所ナリ全軍ノ内魯西  
亞ノ塚ニ進入セシモノハ多クハ死傷シテ生テ塚  
ヲ出テシ者ハ僅カニ六分ノ一ナリト云フ其死傷  
トハ固ヨリ敵兵ニ殺サレシモノモ少ナカラスト  
雖氏過半ハ食料ニ乏シクシテ飢渴ニ斃レタルモ  
ノナリ是ニ由テ考レハ當時ノ一大俊傑ニシテ其  
老鍊此類ナキ拿破崙タリト雖氏斯ル大衆ノ需要  
ヲ給シテ過不及ナカラシメトスルニハ遠ク其  
才力ノ及ハザリシトナル可シ

西洋事情  
卷三

右ノ二例ヲ視テ之ヲ考レハ經濟學ハ元々人為ノ法  
ニ非ラサルヲ瞭然タリ其學ノ趣旨ハ自カラ世ニ  
行ハル、天然ノ定則ヲ説ク、ミナルカ故ニ經濟  
ノ定則ヲ説クハ猶察地學ニ於テ地性ヲ論シ醫學  
ニ於テ病理ヲ明カニスルカ如シ且此學ヲ學ビ講  
究切瑣愈上達スルニ從テ愈其切實ナル真理ヲ探  
リ得メシ近來ハ經濟學モ其秘蘊ヲ極メ其真理ヲ  
明カニシテ世上ノ鴻益ヲ成スヲ舉テ云、可ラス  
人或ハ此學ヲ輕侮シテ妄説ヲ唱フルモノナキニ  
非ラサレ氏實ハ其先入スル所ノ陋見ヲ感ハサレ

西洋事情  
卷三  
三十一

西洋事情 卷之三

テ未タ真ノ趣旨ヲ知ラサル者ナリ大凡天下ノ事  
物ニ於テ無知ハ有知ニ若カス未タ一齋ヲ嘗メス  
シテ全昇ノ旨否ヲ論ス可ケレヤ

私有ノ本ヲ論ス

私有トハ價アル物ヲ躬カテ為ニ用ヒ或ハ自由ニ  
之ヲ處ス可キ權ヲ云フ物或ハ人ノ用ヲ為シテ甚  
タ大切ナレド其人ノ私有ニ非ラサルコトアリ日先  
大氣ノ如キ是ナリ是二物ノ貴キコトハ家財服飾ト  
同日ノ論ニ非ラサレド人ノ私有ニ非ラス即チ造  
化ノ賜ニテ万人共ニ享ル所ノ物ナレハ何人ニテ



モ特ニ之ヲ私スルコト能ハヌ又政治ノ寛大ナル國  
ニ於テ人々ノ身ヲ自由ニスル有様ヲ指シテ其人  
ノ私有ト云フ可ラス蓋シ斯ル善政ノ下ニ立ツ人  
民ハ自カラ作セル孽ニ由テ身ヲ束縛スルニ非ラ  
サルノ外ハ一夫トシテ自由安身ノ地ヲ得サル者  
ナケレハナリ又此理ヲ擴シテ考レハ人ノ言ニ往  
來ノ路ヲ稱シテ國中一般ノ私有ト云フコトモアレ  
氏實ハ私有品ノ名ヲ下タス可ラス  
私有得失ノ理ヲ辨スル者ハ獨リ人類ノミニ非ラ  
ス大凡有生ノ造物ニハ天然ニ此性質ヲ備ヘサル

西洋事情 卷之三



モ、ナシ鳥ノ巢ヲ以テ其私有ト為セルハ猶人ノ  
家ニ於ケルカ如シ巢ハ鳥ノ勤勞ヲ以テ綢繆セシ  
モ、ナリ家ハ人ノ勤勞ヲ以テ造營セシモノナリ  
其得失ハ皆道理ヲ以テ基本トセリ人間私有ノ得  
失ニ至テハ事稍繁雜ニ屬スト雖モ悉ク天然ニ胎  
胎セサルハナシ仮令モ無知無靈ノ獸類ニテモ大  
ニ之ヲ辨別スルモノアリ譬ヘハ犬ハ街道ニ居テ  
役徒ノ衣ヲ守リ或ハ主人ノ為ニ倉庫ノ護衛ヲ為  
セリ且又此犬ハ人ノ為ニ物ヲ守ルノミナラス自  
カラ為ニ其私有ヲ守ルヲ知レリ即チ小屋ノ内

ニ居ル犬ハ自カラ其私宅タル小屋ヲ守テ防禦セ  
リ平生ヨリ其馴從セル人タリトモ強ヒテ之ヲ其  
小屋ヨリ逐ヒ出サントスルハ必ス其人ノ意ニ  
從フナシ  
人類ニ於テハ仮令モ草昧夷俗タリト雖モ私有ノ  
得失ヲ辨別スルト遙カニ禽獸ニ優レリ亞米利加  
土人ノ弓矢ハ其私有ナリ土人若シ私有ノ辨別ナ  
クシテ其弓矢ニ常主ナクハ誰カ心カヲ勞シテ自  
カラ之ヲ作ルモノアラン故ニ開闢ノ始ヨリ私有  
ノ理ハ人ノ天然ニ知ル所ニテ即チ人ヲシテ無為

ニシテ得ヘカヲサル物ヲ有為ニシテ造ラシメ以テ其産ヲ修メシムル所以ナリ蠻野ノ民弓矢ヲ以テ野獸ヲ獲レハ則チ其私有ト為リ肉ハ以テ食ニ供シ皮ハ以テ衣ヲ作ル又物既ニ其私有トナレハ之ヲ他人ニ與フルヲ得ヘシ野民ノ弓矢ハコレヲ其子弟ニ傳ヘ或ハ他人ニ與フルモ妨ナシ又或ハ此弓矢ヲ以テ他人ノ私有品ト貿易スルコトモアリ航海者新ニ國土ヲ發見スレハ其土人獸皮ヲ携テ船ニ來リ船中ノ衣服珠玉ト交易スルコトヲ知レリ蠻野ノ民手ニ弓矢ヲ携ヘ身ニ獸皮ヲ着ルハ即チ

其私有品ニテ之ヲ携ヘ之ヲ着テ何レノ地ヲ徘徊スルトモ他ノ野民其品物ヲ認テ其人ノ私有ト為シ嘗テ怪ム色トシ又雨露ヲ凌ク為ニ小屋ヲ造ル所ハ其小屋ヲ身ニ從ヘテ動クコト能ハス且其身モ常ニ小屋ノ内ニ在ラスト雖モ尚其人ノ私有タリ加之土地ヲ墾開シテ芋ヲ作レハ其土地ハ即チ之ヲ墾開シタル人ノ私有ト為ル甲比丹コック英國有海家サントウ百二十八年ニ生レ千七百七十九年ニウシラドクサ島ニ於テ土人ノ為ニ殺サレタリシトテ發見セシトキ其土人ノ有様ヲ見ルニ蠢愚ニシテ且殺伐ナルコト人肉ヲモ喰フニ至レ

然レ其田園ニハ籬ヲ作テ各常主アリシト云  
又夷俗ノ野民ニ私有ノ辨別ヲ知ルコト尚コレヨ  
リモ密ナルモノアリ亞米利加ノ土人ハ各群ヲ成  
シテ一群毎ニ定式ノ獵場アリ固ヨリ其場所ハ自  
然ノ山野ニテ藩籬ヲ設ケタルニモ非ラサレ其自  
カラ境界ヲ立テ、此群ノ私有タル獵場ニハ彼群  
ノ來テ獵スルヲ許サス  
文明ノ人民ニ於テハ私有ノ辨別愈繁ニシテ愈密  
ナリ我衣服ノ我私有タルハ我身ニ之ヲ着ルヲ以  
テ明ナリ時計、錢袋、小刀、鑰匙、モ我懷中ニアレハ則

チ我私有ニテ人モ亦之ヲ見テ我私有タルヲ許ス  
往來ニテ人ノ懷中ヲ掠擲スル者アハ街卒又ハ  
路傍ノ人ニテモ之ヲ見テ偷見ト為シ直ニ之ヲ捕  
フ可シ時計、錢袋ハ身ニ附シテ動カス可キ物ナ  
ル家具、書画等ノ如キハ親シク身ニ附ルヲ能ハス  
シテ常ニ之ヲ家内ニ置クカ故ニ是等ノ物ハ其家  
ニ住居スル人ノ私有トセリ外人若シカテ以テ之  
ヲ奪ハントシ或ハ欺テ之ヲ取ントスル者アレハ  
必ス之ヲ防カサル可ラス是即チ巡邏街卒ノ任ナ  
リ

私有二種ノ別アリ一ヲ移轉ト云ヒ一ヲ遺轉ト云フ移轉トハ此處ヨリ移シテ彼處ニ轉ス可キ物ヲ云フ金錢高賣品家具書画等ノ如キ是ナリ遺轉トハ其處ヲ動カス可ラスニテ他人へ遺シ傳フル物ヲ云フ地面家宅ノ如キ是ナリ且コレヲ遺傳スルニハ自カラ政府ノ法律アリ移轉品ハ其主人令明ナルカ故ニコレヲ守護スルヲ難カラス前條ニモ云ヘル如ク人ノ懷中ニアル錢袋ハ其人ノ錢袋タルト亦疑ヲ容ル可キニ非ラス  
地面家宅ノ類ハ其主人ノ主人タル證ヲ顯ハス

移轉品ノ如クニ分明ナリ難シ家ヲ買テ代金ヲ拂フトモ終始其家ニ居テコレヲ守護ス可キニモ非ラス又コレヲ携テ動ク可キニモ非ラス故ニ國法ヲ以テ種々ノ證券ヲ認メ金ヲ出タシテ買取リシ家ハ事實其買主ノ私有タルヲ明ニセリ此證券ヲ「タイトル」トシ「デ」ト名ツク既ニ此證券アレハ地面家宅等ヲ買ヒシ者モコレヲ頼テ我私有ヲ守護シ後日ニ至テ故障ノ生ヌ可キ患ナシ尚又此遺傳ヲ固クシテ「」為蘇格蘭又ハ其他ノ國ニ於テモ「タイトル」トシ「デ」トシ「」ノ證券ヲ國中布告ノ書ニ附録スル

アリ斯ノ如クスレハ夜令ヒ證券ヲ失ヒ或ハ之ヲ  
燒失スレトアルモ右ノ布告書ヲ以テ證ト為シ私  
有ヲ失フコトナル可シ  
地面家宅等ノ主人ヲ定ルニハ事稍繁雜ニ巨リ分  
明詳細ノ證書ヲ用ヒサレハ其事情ヲ盡ス可ラサ  
ルコトアリ譬ヘハ三四人ニテ一軒ノ家ヲ持ツカ如  
シ固ヨリ此家ハ三個四個ニ切ル可キ物ニ非ラサ  
レ氏自カラ其一人ハ其一部ノ主人ナリ又地面ヲ  
質ニシテ金ヲ借ルルハ其金ヲ貸タル者ハ地面ノ  
本主ニハ非ラサレヒ一時其地面ヲ支配ス可キ主

人ナリコハ一人ノ金主アリ又一人ノ地主アリ  
テ金主其金ヲ地主ニ貸セトモ地面ヲ買フコトヲ欲  
セス又ハ地主ヨリコレヲ賣ルコトヲ欲セサレハ互  
ニ約條ヲ結ビ今コノ地面ヲ直ニ引渡スコトナシト  
雖氏後日ニ至リ其借金ヲ返サ、ル氏ニ之ヲ引取  
ル可シトノ趣ヲ定ルカ故ニ金主ニ於テハ所謂質  
物ヲ預カルナリ地主一度モ其地面ヲ質入スルキ  
ハ又他ニ約條ヲ結テ先ノ金主ヲ欺ク可ラス此欺  
偽ヲ防グモハ即チ國法ナリ  
又國債ノ元金ヲ以テ私有ノ産ト為ス者アリ其法

左ノ如シ國ニ屢戦争ノ事アレハ政府ノ借金モ亦  
隨テ増カスコレヲ國債ト云フ此國債ヲ償フニハ  
國內ノ稅額ヲ以テ之ニ當ルヨリ他ニ方便ナシト  
雖其高非常ノ大金ニシテ一時ノ稅ヲ集ルトモ  
固ヨリ之ヲ償フニ足ラサレハ法ヲ定メテ其利息  
ノミヲ拂ケ元金ハ唯年々歳々漸次ニ其一部ヲ返  
スノミ故ニ國民私有ノ金ヲ費サスニテ唯其利息  
ノミヲ得ント欲スル者ハ其金ヲ政府ニ貸シテ國  
債ノ内ニ加入ス即チ國債ノ元金ヲ所持スルトハ  
是レヲ云フナリ右ノ如ク政府ハ唯利息ヲ拂フ

ミニテ必スシモ元金ヲ返サレハ最初元金ヲ出  
タセル者ニテ一時ニ之ヲ得ント欲スレハ元金所  
持ノ名目ヲ他人ニ讓テ現金ニ代ルヲ得ベシ事  
本編卷之一第  
十三葉ニ出  
商會社ノ元金ヲ以テ家産ト爲スモノハ又一種  
ノ別法ナリ平人私ニ會社ヲ結テ鐵路ヲ造リ港ヲ  
築キ市場ヲ開キ兩替座ヲ建テ水道ヲ引ク等大  
事業ヲ企ルハ國中ノ人先ツ其元金ヲ出タシ事  
成リ利生スルニ至レハ各其元金ヲ出タセル多寡  
ニ應ジテ利潤ヲ分配ス商社ノ元金ヲ所持スルト

ハ即チコノ事ナリ其法種々アレハ一般ニ元金所  
 持ノ名目ハ以テ子孫ニ傳ヘ或ハ以テ他人ニ賣ル  
 可キト他ノ物品ニ異ナルトナシ但シ其名目ハ手  
 フ以テ手ニ渡ス可キ實物ニ非ラサレハ之ヲ授受  
 スルニ證書ナカル可ラス 事ハ本編卷之一  
第十七葉ニ出  
 私有ノ種類ニ尚又一層ノ美ヲ盡シ繁ニシテ且密  
 ナルモノアリ即チ發明ノ免許藏版ノ免許等は  
 ナリ國法ノ趣旨ハ人ノ私有ヲ保護シ以テ其勤工ヲ  
 助ケ成ス所以ノモノナリ世ニ新發明ノ事アレハ  
 之ニ由テ人間ノ洪益ヲ成スヲ舉テ云フ可ラス故

ニ有益ノ物ヲ發明シタル者ハ官府ヨリ國法ヲ  
 以テ若干ノ期限ヲ定メ其期限ノ間ハ發明ニ由テ  
 得ル所ノ利潤ヲ獨リ其發明家ニ附與シテ以テ人  
 心ヲ鼓舞スルノ一助ト為セリ之ヲ發明ノ免許ト  
 ント名ツク譬ヘハ爰ニ一士人アリテ水ノ漏ラサ  
 ル布ヲ製スルヲ發明スレハ則チ國法ニ由テ若  
 干ノ期限ノ間ハ獨リ此布ヲ製シテ利ヲ得ベシト  
 ノ免許ヲ受ケ此免許ヲ以テ私有ノ産ト為ス抑獨  
 リ物ヲ製シテ獨リ其利ヲ專ニスルハ壟斷ノ利ヲ  
 占メテ他人ノ損ヲ為スニ似タレハ其發明ニ由テ

世ノ裨益タルト大ナルカ故ニ世間ノ為ニ謀リテ  
モ其所得ハ所損ヲ償テ遙カニ餘アリ又書ヲ著述  
シ圖ヲ製スル者モ之ヲ其人ノ藏版ト為シテ獨リ  
利ヲ得ルノ免許ヲ愛ケ以テ私有ノ産ト為セリ之  
ヲ藏版ノ免許トビラト名ツク

勤勞ニ別アリ功驗ニ異同アルヲ論ス  
カヲ勤勞スル者ハ或ハ物ノ形質ヲ變シ或ハ物  
ノ處ヲ移シテ其物ノ品位ヲ増加ス故ニ其増加  
シタル品位ハ即チ其人ノ有ナレハ其物ヲ以テ  
盡ク自己ノ需用ニ供スル歟又ハ力ヲ勞セシ多

寡ニ從テ其一部ヲ取ルニ於テ妨アルトナシ  
右ノ如ク力ヲ勤勞シテ從テ生スル所ノ功ハ其  
勤勞ノ多寡ニ從テ大小アルカ故ニ其勞ヲ半ニ  
シテ其功ヲ陪ス可ラス譬ヘハ爰ニ一匠アリテ  
至當ノ術ヲ以テ一脚ノ椅子ヲ作ルキハ他ノ拙  
匠コレニ倣ヒ更ニ力ヲ省テ同様ノ椅子ヲ作ラ  
シトスルニ決シテ成ル可キノ理ナシ故ニ椅子  
ノ價ハ同時同處ニ於テ常ニ同様ヲラザルヲ得  
ス且又椅子ニ於テハ自カラ其數ヲ陪加スルノ  
力ナシ  
刊行ノ書類等ニ相  
反對セルヲ云フ  
故ニ是等ノ職人ハ自



カラ一種、全權アリテ恰モ壟斷ヲ私スルカ如シ其故ハ天下ノ衆匠椅子ヲ作ルニ此職人ノ作ルヨリモ價ノ廉ナルモノナク此廉價ヲ以テ此椅子ヲ作ルモ、獨リ此職人ノミナレハナシ力役ノ景況ハ斯ノ如シト雖心ヲ勞シテ發明ト工夫トヲ勤ムルモ、ニ於テハ其事情全ク相反セリ發明工夫ハ元無形ニシテ知識ヨリ生スルモノナリ知識トハ人身軀中無形ノ部分ナル精心ノ變動ナリ精心一度動テ知識ヲ生スレハ即チ其精心ニ品價ヲ増スト雖其品價ノ位

スル處ハ無形物ナレハコレヲ以テ其人ノ私有品ト為ス可ラス或ハ又假ニ之ヲ私有品ト定ルトモ事實其人ノ用ヲ為サス且又精心ノ變動ニ由テ生スル所ノ知識ハ唯其本人ノ思慮ニ感スルノミニテ藏テ之ヲ匿セハ他人ノ見聞スルヲ能ハサルモノナリ是即チ力役ト心勞ト其趣ヲ異ニスル所以ナリ  
事物ノ變化スル所以ノ理ヲ窮メテ其定則ヲ發明セントスルニハ非常ノ才力ヲ盡シテ時ヲ費シ財ヲ散スルニ非ラサレハ其極ニ至リ難シト

雖此一旦此定則ヲ發明スルハ九庸ノ人物ニ  
テ之ヲ傳ヘ習フコト得ヘシ爰ニ人アリ一理  
ヲ發明シテ之ヲ鄰人ニ告レハ忽チ其人ノ精心  
ヲ動カシテ知識ヲ生ス鄰人又コレヲ他ニ傳フ  
レハ一時ノ間ニ千人ノ心ヲ動カシテ又其知識  
ヲ生シ千ハ萬ニ傳ヘ萬ハ億ニ傳フ殊ニ此發明  
ヲ書ニ記シテ版本ト為スルハ其傳習ノ陪加ス  
ルコト更ニ際限アルコトナシ故ニ始テ事物ノ理ヲ  
發明スルノ勤勞ト其發明ヲ聞テ之ヲ他ニ傳フ  
ルノ勤勞トヲ比較スルハ其難易年ヲ同フシ

テ語ル可ラスト雖此其發明ヲ私ス可ラス又之  
ヲ買賣シテ獨リ壟斷ノ利ヲ占ムルノ方便ナシ  
其故ハ一旦人ノ知識ニ由テ發明スルコトアレハ  
其知識ヲ取テ人ニ傳フルニハ固ヨリ勤勞ヲ費  
スニ足ラス之ヲ傳ヘ又之ヲ傳ヘテ其數ノ一時  
ニ陪加スルコト限ナク遂ニ買賣ノ價ヲ失フニ至  
レハナリ  
右ノ如ク精心ヲ以テ産スル物ハ其需用供給勤  
勞報酬ノ趣全ク尋常ノ物ニ反對スルカ故ニ常  
則ヲ以テ之ヲ制ス可ラス然リト雖此無形ノ産

物タル發明工夫ハ以テ國家ノ大益ヲ起シ世人  
 ノ幸福ヲ増ス可キ至大至重ノモノナレハ經濟  
 學ニ於テハ自カラコノ產物ヲ處置スル法アリ  
 テ其發明家ヲシテ勞スレハ隨テ必ス其報ヲ得  
 セシメリ

文明國ニ於テハ無形ノ產物タル發明工夫ノ以  
 テ人間ノ洪益ヲ成シ且其發明家ナル者動モス  
 レハ勞シテ報ヲ得サルノ弊アルヲ察シテ乃チ  
 法ヲ設ケ此類ノ勤勞ヲ為セシ者ハ必ス至當  
 ノ報酬ヲ得セシムルノ處置ヲ為セリ即チ藏版

ノ免許發明ノ免許ノ如キ是ナリ著述家發明家  
 ハ唯此法ノニ依賴シテヨク其知識ノ產物ヲ  
 處置シ之ニ由テ利潤ヲ受ルヲ得ルナリ若シ  
 然ラサルバハ書ヲ著シ物理ヲ發明スルトモ其  
 心ヲ勞シテ得ル所ノ報ハ定式ノモノナクシテ  
 唯世人ノ志ニテ傍ヨリ其功勞ヲ思ヒ聊之ニ附  
 與スル所ノ褒賞ノミナル可シ大凡天下ノ人ニ  
 功アレハ其事業有形ノ產物ニ係ルト雖其物  
 ニ由テ利潤ヲ取リ又從テ褒賞ヲモ得ベシ然ハ  
 則チ心ヲ勞シテ無形ノ物ヲ産スルトモ獨リ其

褒賞ヲ得ルノミニテ常式ノ利潤ヲ得サルノ理  
 右ノ議論ヲ推シテ考レハ尚又力役ト心勞トノ  
 間ニ一種ノ區別アリ力役ニ由テ産スルモノハ  
 實物ナレハ其多寡ニ限アリ其價ニ定アリテ之  
 ヲ他國ニ輸出スルハ其價ニ適當ス可キ他品  
 ト交易ス可キカ故ニ一國中ニ農工商ノ業ヲ勤  
 メテ産物ヲ多クスレハ其國必ス富ヲ致スト雖  
 比無形ノ産物ハ之ニ異ナリ人ノ知識ハ他國ニ  
 輸出シテ他ノ實物ト交易ス可キモノニ非ラス

且爰ニ一片ノ知識アレハ之ヲ傳ヘ之ヲ習フテ  
 忽チ其類ヲ陪加シ諸人ノ需ヲ飽カシムル至ル  
 可シ故ニ一國ノ人民盡ク學者先生ニテ窮理發  
 明其他教授ノ業ニノミニ從事シテ他ノ産業ヲ  
 修ルヲナクハ其國民富ヲ致サハルノミナラス  
 遂ニハ飢渴ノ窮ニ陥入ル可シ元來是等ノ職人  
 學者ヲニ由テ産スル物知識ヲハ他ノ職業ニ合  
 セサレハ嘗テ功用ヲ為サスト雖比他ト相合シ  
 テ此彼相助ルハ其功最モ大ナリ之ヲ譬ヘハ  
 心ヲ勞スル者ハ猶蒸氣ノ如ク力ヲ役スル者ハ

猶機關ノ如シ機關ノ仕掛互シキヲ得テ之ニ蒸氣ノ力ヲ施スルハ其功驗實ニ人ノ耳目ヲ驚カスト雖氏機關ヲ除テ獨リ其蒸氣ヲ放テハ唯空中ニ飛散スルノミ又機關ノ部分ヲ解ク其材料ヲ以テ粗糙ノ用ニ供ス可カサルニ非ラサレ氏蒸氣ヲ以テ真ニ其作用ヲ起サレハ之ヲ無用ノ長物ト云テ可ナリ右ノ故ヲ以テ世上ノ職業各其類ヲ異ニスト雖氏互ニ相助ケサル可ラス萬物ノ理ヲ窮メテ其定則ヲ知ル者ナケレハ蠻野ノ民タルヲ免カレ

器械ノ用法ニ巧ナル者ナケレハ知識ヲ研クノ方便ナシ或ハ其知識アルモ之ヲ實用ニ施ス可ラス故ニ世人或ハ其先入スル所主トナリテ心ヲ勞スル者ト力ヲ役スル者ト互ニ其職業ヲ輕侮スルトナキニ非ラサレ氏無謂ノ甚シキモノト云フ可シ事實ニ於テ此兩様毫モ輕重ノ別ナシ双方互ニ力ヲ戮セ好合調和以テ物産ノ道ヲ進メ世ノ便利ヲ達シ人ノ幸福ヲ増スハ豈人間ノ一大美事ナラスヤ發明ノ免許ハトテ 往古世ニ此法アルヲ聞ク方

今モ歐羅巴亞米利加ノモニテ他國ニハコレナ  
シ英國ニ行ハル、トハ最モ舊シト雖氏僅カニ  
二百余年ノミ佛蘭西ニテハ千七百九十一年ヲ  
始トス亞米利加合衆國ニテモ千七百九十六年  
始テ此法ヲ建テ其後千八百六十一年コレヲ改  
正セリ此法ノ趣意ハ世ノ士君子新奇有用ノモ  
ノヲ發明シテ之ヲ秘スルトナク世上一般ノ裨  
益ヲ爲スカ故ニ世人モ亦報恩ノ爲ニ暫時ノ間  
發明ノ利潤ヲ獨リ其發明者ニ附與シテ專賣ノ  
權ヲ執ラシムル所以ノモノナレハ恰モ世上一般ノ人ト發明家ト約条ヲ結フカ如シ故ニ發明  
家モ其免許ヲ受ルニ欺テ發明ノ秘蘊ヲ匿スル  
ハ國法ノ趣旨ニ戾リ又コノ免許ヲ與フル政府  
ニ於テモ既ニ世間ニ行ハル、陳腐ノ事ヲ採用  
シテ專賣ノ權ヲ附與スルトアラハ法ノ行ハル  
トナカル可シ畢竟政府ノ目的トスル所ハ世  
間一般ノ爲ヲ謀テ發明家ニ專賣ノ大利ヲ許シ  
人心ヲ鼓舞シテ世ニ有益ノ發明多カラシメン  
トスルニ在リ其法世ノ士君子窮理舍密器械學  
等ヲ研究シテ新奇有用ノ物ヲ發明スルトアレ

ハ其次第ヲ書ニ記シテコレニ品物ノ圖ヲ添ヘ  
或ハ又圖ヲ以テ解シ難キモノハ其雛形ヲ造リ  
テ其書面ニ發明者ノ姓名ヲ記シコレヲ「パテン  
ト」オズシ云ヘル發明免許ノ官局ニ出シテ點  
驗ヲ請フ此局ニハ年來免許ヲ請ヒシ種々ノ機  
關器械文具武器衣服冠履織物模様等千萬ノ繪  
圖雛形ヲ排列シ新ニ免許ヲ請フモノアレハ其  
品物ヲ局中在來ノ諸品ニ比較シテ未曾有ノ新  
工夫ナルカハ則チ局ノ證書ヲ與ヘ其品物ヲ製  
シテ獨リ之ヲ賣ルコトヲ免ス但シ此免許ヲ受ル

年限ノ長短ニ從テ官ニ納ル稅ノ多少アリ其割  
合亞米利加ニテハ三年半ノ免許ヲ受ルニハ稅  
銀十「ドル」ラレ七年ナレハ十五「ドル」ラレ十四年  
ナレハ三十「ドル」ラレ定トス又新ニ工夫ヲ始  
メタレハ之ヲ試驗シテ成功ニ至ルマテハ多少  
ノ時日ヲ費ス可クシテ其間ニ同様ノ發明ヲ以  
テ免許ヲ請フ者アラシコトヲ恐ル、カハ其工夫  
ノ次第ヲ記シテ官局ニ訴ヘ預之ヲ防クコトヲ得  
ベシコレヲ「カス」ト稱ス「カス」トハ預防ノ  
義ナリ既ニ預防ノ書ヲ局ニ納ルカハ局中ニテ

ハ之ヲ秘シテ人ニ示サス若シ其後一年ノ内ニ  
同様ノ發明ヲ以テ免許ヲ請フ者アレハ先人ノ  
納メ置キシ預防ノ書ヲ以テ前後ノ證ト爲シテ  
其免許ヲ與フルコトナシ此預防ヲ請フニハ一年  
ノ稅銀十<sup>ドル</sup>ラ<sup>ル</sup>テ以テ定トス既ニ一年ヲ經  
テ尚ホ未タ其工夫ヲ遂ケサルハ又十<sup>ドル</sup>ラ<sup>ル</sup>  
ノ稅ヲ納メテ一年ノ期限ヲ延ハス可シ又免許  
ヲ得サル物へ免許ノ記号ヲ附ケ或ハ免許ヲ得  
タル人ノ名ヲ盜シテ贋物ヲ製スル者ハ其偽物  
一個毎ニ百<sup>ドル</sup>ラ<sup>ル</sup>ノ過料ヲ拂ハシム都テ發

明ノ免許ヲ與フルニハ公平ニシテ偏頗ナキヲ  
主トスルカ故ニ其官局ニ參カル吏人ハ發明ユ  
夫ヲ以テ躬カラ免許ヲ受ルヲ禁セソ○英國ニ  
テ發明ノ免許ヲ受ルノ法ハ先ツ其發明ノ次第  
ヲ官局ニ告テヨリ六月ノ間ハ稅ヲ納ルコトナク  
シテ其專賣ヲ許シ此間ニ免許ヲ請フノ利害得  
失ヲ試ルコトヲ得セシム其發明ノ器品果シテヨ  
ク世ニ行ハルニ付キ免許ヲ受ルヲ以テ便利  
ナソトスル者ハ改テ之ヲ請ヒ專賣ノ期限十四  
年ノ免許ヲ得ベシ且又此十四年ヲ三期ニ分チ



先ツ二十五<sup>ポンド</sup>ヲ納メテ初期三年ノ稅ト爲シ三年ノ期終レハ又五十<sup>ポンド</sup>ヲ納メテ次期四年ノ稅ト爲シ四年終レハ又百<sup>ポンド</sup>ヲ納メテ末期七年ノ稅ト爲ス合シテ十四年ナリ斯ノ如ク期限ヲ分ツ所以ハ一旦免許ヲ受タル者モ其專賣ノ利潤少ナケレハ中途ニシテ之ヲ廢スル<sup>ト</sup>ヲ得<sup>ル</sup>メシメンカ爲<sup>ナ</sup>リ方今英國ニテ發明ノ免許ヲ與<sup>フル</sup>ト毎歲二千人ニ近シト雖<sup>モ</sup>多クハ中途ニテ廢止シ其七年ノ期ヲ越ヘテ尚<sup>ホ</sup>持續スル者ハ僅カニ二百人ニ過<sup>キ</sup>スト云フ

藏版ノ免許<sup>イコビ</sup>ヲ此法ハ著述家ヲシテ獨<sup>リ</sup>其書ヲ版本ニ製<sup>シ</sup>テ專賣ノ利ヲ得<sup>セ</sup>シムルモノナリ往古ノ法ハ唯有形ノ物ヲ以テ人ノ私有ト定<sup>メ</sup>シガ爾後人ノ知識ヲ以テ産スル無形物ニテモ自<sup>カ</sup>ラ實價ヲ得<sup>ル</sup>ノ風俗トハナリタレ<sup>ル</sup>惟<sup>ニ</sup>近代ニ至<sup>ル</sup>マデモ國法ニ於テ未<sup>タ</sup>其詳ナル規則ヲ揭示スルニ至<sup>ラ</sup>ズ千七百六十九年英國ニ於テ遇<sup>ヘ</sup>藏版ノ<sup>ト</sup>ニ付事故ヲ生<sup>シ</sup>藏版ハ永代著述家ノ私有ト爲<sup>ス</sup>可<sup>キ</sup>ヤ又ハ其年期ヲ限<sup>ル</sup>可<sup>キ</sup>ヤトノ議論アリテ遂ニ議事院ノ評議ニ從

年限ヲハモ、ト定メ其年限ノ間ハ國法ヲ以テ著述家ニ專賣ノ權ヲ附與セリ千八百四十二年尚又此法ヲ改正シ著書專賣ノ期限ハ著述年ヨリ計テ四十二年ヲ限トシ此期限ヲ終テ其著述家存命ナレハ存命中ハ尚之ヲ許セリ書ヲ著ス者ハ先ツ其書名著述ノ年月著述家ノ姓名住所ヲ出版ノ會所ニ告ケ出版ノ後一月ノ内ニ其版本一部ヲ博物館ニ納メ其他國內四所ノ大學校ヘヒコレヲ納メシム○合衆國ニ於テハ千八百二十一年藏板免許ノ法ヲ改メ著述家ノ專

賣ハ二十八年ト定メ此期限ノ後モ十四年ノ間ハ其本人又ハ妻子ニテ著書ヲ再版シテ專賣ノ利ヲ占ルコトヲ得セシム即チ其年限ハ前後合シテ四十二年ナリ佛蘭西白耳義ニテハ年限ニ拘ハラヌ著述家ノ生涯ト其死後二十年ノ間相續ノ者ハ專賣ヲ許スバフソリヤタルラレボハ其外日耳曼列國ニテハ著述家ノ死後三十年ノ間コレヲ許ス澳地利ハ伊多利ノ諸國ト條約ヲ結テ双方ノ國々ニテ書ヲ著スモノアレハ其遺稿ニテモ四十年ノ間ハ相續ノ者ハ開版專賣ヲ許

ス魯西亞ニテハ著述家ノ生涯ト死後二十五年  
ノ間コレヲ許ス英國ニテ藏版ノ免許ハ書籍ノ  
ミナラス地圖新聞紙等其他彫刻ノ像モ皆一類  
トセリ合衆國ニテモ大同小異書籍地圖標目ノ  
掛物樂譜等都テ彫刻ノ版類皆コレニ屬ス合衆  
國ニ於テ藏版ノ免許ヲ請フノ法著書ヲ開版セ  
ントスレハ先ツ其書名ヲ記シテ著家住處ノ官  
局ニ告ケ藏版ノ稅トシテ一部ノ書ニ付半ドル  
ヲ納メ免許ノ手數銀トシテ又半ドルヲ  
拂フ既ニコレヲ開版スレハ開版後三月ノ内

ニ其版本一部ヲ官局ニ納メ其他「スミソニヤレ」  
ト云ヘハ書庫へ一部議事院ノ書庫へ一部ヲ納  
メ然ル後ハ國法ヲ以テ此藏版ヲ守護シ國內ニ  
偽版ヲ作ルモノナレ又國法ヲ犯シ官ニ告ケス  
シテ開版スル者アレハ其賣弘ロメシ版本ノ紙  
數一帖ニ付半ドルヲ付ツ、ノ過料ヲ取リ且其  
偽版者ノ手許ニ在ル版本ヲ盡ク後入活字版ス  
、書又彫刻ノ版木ナレハ其版木ヲ没入シ且其  
版本ノ紙數一帖ニ付一ドルヲ付ツ、ノ過料ヲ  
取ル又藏版ノ免許ヲ受ケサル書ニ偽テコレヲ

受ケタルモノト記スキハ仮令其版本ヲ賣買  
セザルトモ百ドルラシノ過料ヲ取ル又千八百  
五十六年ノ法例ニ據レハ戲作狂言ノ著述ニモ  
藏版ノ免許アリテ其著述家ノ承諾ヲ得サレハ  
之ヲ戲場ニ施スヲ許サス若シ然ラズシテ他ノ  
作ヲ盜ミ私ニ戲場ヲ設ルモノアレハ初テコレ  
ヲ犯ス者ニハ百ドルラシノ過料ヲ取リ次ニ之  
ヲ犯ス者ニハ五十ドルラシノ過料ヲ取ル○英  
國政府ニ於テ自國ノ著述家ヲ保護セニカ為千  
八百三十八年議事院ノ評議ニ從ヒ各國ト約条

ヲ結テ互ニ藏版免許ノ法ヲ守ラレトノ說ヲ立  
テ佛蘭西普魯士サクソニーハノウフルプロロ  
スウヰツク等ノ諸國ハ此說ヲ採用シ此國々ニテ  
書ヲ著ス者ニハ各國互ニ免許ヲ與ヘテ專賣ノ  
權ヲ妨ルコ勿ラシメリ但シ其書ヲ互ニ輸入ス  
ルニ相當ノ稅ヲ取ルノニ合衆國ニテモ英國ノ  
說ニ從ヒ互ニ藏版ノ法ヲ守ラレトシ既ニ千八  
百五十四年エドワルト、エタレット外國事務執政  
ノモ始テ其約條ヲ結ハレトスルニ至リシカト  
モ上院ノ内ニ異論アリテ今日ニ至ルマテ未タ

其事ヲ遂ケスト云フ

私有ヲ保護スル事

國法ヲ以テ人ノ私有ヲ保護スレハ國中貧富ノ別  
ナク皆其恩澤ヲ被ラサルモノナシ或ハ又富豪ノ  
勢ニ乘シテ暴行ヲ恣ニシ不正ヲ行フノ弊ヲキニ  
非ラサレバ此弊ハ元私有ヲ保護スルカ為ニ生シ  
タルモノニ非ラス畢竟他ノ法度ニ欠典アルヲ以  
テ然ラシムルモノナリ良政府ノ下ニ於テハ一人  
富ヲ致シハ衆人其福ヲ共ニス佞令ニ卑賤ノ小民  
タリトモ自個ノ利益ヲ謀ルヲ知テハ私有保護ノ

趣意ヲ誤解スル勿レ小民ノ自カラ衣食ヲ給シテ  
其不幸ヲ免カル、所以ハ唯富人ノ有餘ヲ仰クニ  
アラスヤ

私有ヲ保護スルニ其處置ノ第一着ハ先ツ人ノ勤  
勞ヲ保護ス可シワットガ蒸氣機關ヲユ夫シラズ  
ルガ繪ヲ画キミルトンガ詩ヲ作リシ如ク此世ニ  
功アルモノハ世人其功ニ報キ自個ニ其報ヲ得ハ  
シ概シテ之ヲ云ヘハ心カヲ勞シテ從テ生スル物  
アラハ其物ヲ躬カラ所持シ或ハ之ヲ賣テ價ヲ取  
ルニ他ヨリ之ヲ妨ルノ理ナシ故ニ勤勞ヲ保護ス

ルトハ即チ其勤勞ニ由テ生シタル私有品ヲ保護  
スルコトナリ譬ヘハ職人ノ給料ハ其私有ナリ  
人々心カヲ勞シ從テ其報ヲ受ルノ正理タルヲ論  
スルハ修心學ノ趣旨ナリ經濟學ニ於テ論スル所  
ハ世ノ形勢斯ノ如ク正理ニ赴クヲ得バ必ス一般  
ノ為ニ利益アル可キ所以ヲ示スノミ人若シ世ノ  
為ニ功ヲ立テ、其報酬ヲ得ルノ目的ナクハ何人  
カ徒ニカヲ勞メンヤ世ニ功ヲ立ル者ナキハ即チ  
世間一般ノ損亡ナラスヤ人或ハ此議論ヲ以テ私  
欲ヲ行ハレトスルノ辭柄ナリト云フ者アレド固

ヨリ無根ノ妄言其辨解ヲ俟タズ人ヲシテ世ノ為  
ニ功ヲ為サシメ從テ至當ノ報ヲ得セシムルニ於  
テ何等ノ妨ヲモ可キヤ決シテコレヲ私欲ト云フ  
可ラス大凡ソ人トシテ一身ノ俸養ヲ為シ又其妻  
子ニ衣食ヲ給スルハ天下ノ通理ナリ今此國ニ生  
レテ大功ヲ立ル者アレハコレニ由テ其國益ヲ成  
スノミナラス自カラ一家ノ産ヲ起シ其子孫ヲシ  
テ飢寒ノ患ヲ免カレ不羈獨立ノ活計ヲ遂ケシム  
ヘケレハ一舉ニテ公私兩様ノ幸福ヲ成スモノト  
云フ可シ抑勞シテ報ヲ得トスルノ心ハ果シテ

理ノ當然ニ出ルモノ歟或ハ又然ラサル歟姑ク其  
是非邪正ノ論ヲ置キ試ニ見ヨ天下古今ノ人類誰  
カ此心意ナキモノゾ今若シ強テ此心ナカラシメ  
ント欲セハ宜シク不食不眠ノ人ニ就テコトヲ責  
ム可キノミ  
故ニ心カヲ勞シテ其報酬ヲ受ルハ確乎不拔ノ正  
理ナレバ其報酬ヲ我私有ト為スノミニシテ之ヲ  
他ニ分與スルヲ能ハサレハ未タ私有ノ趣意ヲ盡  
スニ足ラス現ニ有功ノ者ニ非ラサルノ外ハ決シ  
テ其報酬ノ賜ヲ與ニスルヲ能ハサルモトセハ

或ハ之ノ受ケテ其益ナシ猶食テ味ナキカ如シ且  
又斯ノ如クナルハ其心カヲ勞スル者モ唯一身  
ノ私欲ニ役セラレヌト云テ可ナリ故ニ家産  
ヲ積テ子孫ニ遺スモ私有ヲ自由ニスルノ趣意ニ  
テコレヲ人生最後ノ自由ト云フ人若シ此自由ヲ  
失テ遺物ヲ子孫ニ傳フルノ目的ナクハ唯存命ノ  
間ニ忙ハシク其私有ヲ處置セシトシ之カ爲遂ニ  
ハ風俗ヲ乱タリ國法ヲ破ルノ弊ヲ生ス可シ世上  
或ハ其例ナキニ非ラズ  
心カヲ勤勞シテ家産ヲ起シタル者ハ生前死後共

之ヲ自由ニ處置シ之ヲ人ニ傳フルヲ得ルカ  
 故ニ之ヲ受ル者モ直ニ我私有トナシ自由ニ之ヲ  
 處置スルヲ其先人ニ異ナルナシ○人ノ遺物ヲ傳  
 フルニ最モ妨ナキモノハ其子ナリ子ナキモノハ  
 其近親ニ與フルモ亦可ナリ是即チ自然ノ人情ナ  
 レハ文明國ニ於テハ人ノ死期ニ當テ遺言ヲキ者  
 ト雖氏死後ノ遺物ヲ處置スルニ當テハ死者ノ心  
 ヲ推シテ之ヲ至親ノ者ニ傳フルヲ以テ定例トセ  
 リ加之某國ニテハ子ナキ者一旦其家産ヲ他人ニ  
 讓ルトモ其後ニ子ヲ生ムルハ則チコレヲ取返シ

テ實子ニ與フルヲ許セリ又各國ニ於テ人ノ産ヲ  
 妻子ニ遺サスシテ他人ニ與フルハ國法ノ禁スル  
 所ナリ  
 私有ノ産ヲ自由ニスルニ度ニ過レハ國民一般ノ  
 利益ヲ妨ル弊アリ國民一般ノ利益ヲ重スルニ  
 度ニ過レハ私有ノ趣意ニ害アリ兩様ノ間ニ至當  
 ノ境界ヲ立ツルハ一難事ナレバ文明國ニ於テハ  
 稍々其規律ヲ設ケリ第一ニハ私有ノ産ニ富ムト雖  
 其富有ノ威光ヲ自然ニ任シテ度ニ過ルトナカ  
 ラシメ第二ニハ人民ヲ保護シテ富有ノ威光ニ苦



シイラキ、勿ラシムルヲ趣旨トセリ世間ニ富  
 マ致ス者アレハ其勢ニ乘シテ同類ノ人ヲ賣奴  
 如クニ仕役スルトモ妨ナク此惡習ヲ以テ一般  
 風俗ヲ成セル國アリ昔年佛蘭西ニ於テ騷亂ノ前  
 ニハ國ニ貴族ナル者アリテ其富有最モ盛ナリシ  
 カ私有ノ土地ヲ領シテ稅ヲ出タスナシ然ルニ  
 貧窶ノ小民ハ却テ私ノ稅ヲ納ルノミナラス又此  
 貴族ノ為ニ空シク仕役セラレタリ是即チ富有ノ  
 威光ヲ自然ニ任セシテ適度ヲ過キタル一例ナ  
 リ英國ニ於テハ決シテ此惡習ナシ

前論斯ノ如シト雖モ富有ノ威光ヲ自然ニ任シ其  
 カヲ逞フセシムルノミテ之ヲ監察スルヲナクハ  
 亦以テ不正暴行ノ柄トナシ可シ貧ニシテ惡心  
 ル者ハ賄賂ヲ貪テ人ヲ殘殺シ或ハ偽テ自カラ證  
 人ト爲リ私ニ人ノ惡ヲ助クル等ヲ以テ其常習ト  
 セリ今伊多利、葡萄牙ノ一貴族他人ト不和ヲ生ス  
 ルハ金ヲ以テ刺客ヲ買ヒ私ニ其仇ヲ殺スル甚  
 容易ナリ土耳其及ヒ其他東洋諸國ニ於テ裁判所  
 ニ訴訟ノ事アレハ富人ハ常例ニ從テ金ヲ出タシ  
 偽證ノ人ヲ用ヒテ常ニ其公事ニ勝チ貧者ハ常ニ

曲ヲ蒙ラサルコトナシ魯西亞ニ於テモ裁判所ノ吏  
 人動モスレハ賄賂ヲ受ケテ不公平ノ處置ヲ爲ス  
 一アリ我英國ニ於テ斯ル不正ノ事アラハ其事ニ  
 關係セル者ハ盡ク罪人トシテ必ス刑ニ處セラレ  
 可シ

私有ヲ保護スル中ハ貧人モ共ニ其德ヲ被ルトノ  
 一ハ前既ニ之ヲ論シタリ家産ニ有餘ナク又不足  
 ナキ者ハ固ヨリ人ニ物ヲ分與スル能ハサルカ故  
 ニ貧ニシテ不幸ニ逢フ者ハ唯富有ノ餘ヲ仰テ一  
 時ノ難ヲ免カル、之是即チ文明諸國ノ風俗ニ

テ私有ヲ貯蓄スルノ德澤ナリ私有ヲ保全スルハ  
 國ノ爲ニ一大緊要事ナレト人ノ生命ヲ保全スル  
 ニ至テハ其事更ニ又重大ナリ故ニ窮民ヲシテ餓  
 死ノ難ヲ免カレシメレカ爲救窮ノ法ヲ設ケリ其  
 法ハ前段ニモ記載セル如ク有餘ノ財ヲ以テ不足  
 ノ窮ヲ救フノ趣意ナリ  
 私有ヲ保護セントスル中ハ隨テ又其冗費アリ國  
 ニ私有ノ財少ナケレハ裁判所ノ吏人市中ノ街卒  
 獄屋ノ數ヲニコレニ準シテ減少ス可シ元來裁判  
 刑獄ノ法ヲ設ル、其冗費ハ悉ク國中ノ稅額ヨリ

出ルカ故ニ私有ヲ貯フルヲ最モ多キ者ハ税ヲ納ル  
 ルトモ最モ多カル可キノ理ナリ蓋シ裁判刑獄ノ  
 德澤ヲ被ルヲ最モ多キ者ハ私有ヲ貯ルヲ最モ多  
 キ者ナレハナリ此理ヲ推シテ考レハ飢寒ニ苦シ  
 ム小民ハ動モスレハ他ヲ害スルカ故ニ國ニ救窮  
 ノ法ヲ設ル片ハ富豪ノ人モ亦共ニ其德澤ヲ被ル  
 ノ理ナリ又人民教育ヲ被リ風俗文明ニ赴キテ人  
 ヲ私有ノ趣旨ヲ知リ一身ノ職分ヲ辨スル片ハ之  
 カ爲國中富豪ノ人ノ利益ヲ爲ス一舉テ云フ可ラ  
 ス故ニ是等ノ趣意ヲ以テ税ヲ納メ金ヲ費スハ富

人ニ於テ固ヨリ當務ノ職分ト云フ可シ  
 抑富有ノ人ハ唯國法ニ從フノミヲ以テ其處置ヲ  
 盡セリトス可ラヌ法ノ禁スルト否トニ拘ハラヌ  
 都テ其私財ヲ處置スルニハ宜シク躬カラテ惡意ヲ  
 除キ他人ヲ害スルヲ以テ先務ト爲ス可シ  
 是即チ富人ノ利益ノミナラス或ハ其職分ト云テ  
 可ナリ元來私有ノ財ヲ保護スルハ國中一般ノ便  
 利トハ雖臣主トシテ其保護ヲ受ルモノハ富人ナ  
 リ故ニ國中一致シテ他ノ富有ヲ保護スレハ其保  
 護ヲ蒙ルモノモ亦其恩ヲ謝シ世上一般ノ爲ニ善

西澤重情の編 卷三

ヲ施サ、ル可ラ、國內ノ富人ヨク此趣百ヲ躰シ  
富ヲ以テ其地位ト威權トヲ得レハ又從テ其責ニ  
任ス可キ所以ノ理ヲ知ル、其國常ニ安全ナラ  
サルハナシ

私有ノ利ヲ保護スル事

允ソ私有ハ何品ニテモ之ヲ他人ニ貸セハ其報ト  
シテ物ヲ納ルヲ常トス即チ其物ハ私有ヲ貸シタ  
ル人ノ利潤ナリ家ヲ以テ私有トスル人ノ利潤ハ  
家賃ナリ船ヲ以テ私有トスル人ノ利潤ハ船賃ナ  
リ又金ヲ以テ私有トスル人ハ其金ヲ貸シテ利息

ヲ取ル可シ但シ利息ノ多少ハ時ノ事情ニ由テ一  
様ナラズ

高賣ノ利トハ元金ヲ用ヒテ物ヲ賣買シ從テ得ル  
所ノ利潤ナリ此利潤ヲ生スル所以ノ原因ハ多ク  
ハ元金ノ多少ニ在ラズシテ其人ノ勞逸ニ關係ス  
ルカ故ニ或ハ之ヲ勤勞ノ報ト云テ可ナリ但シ金  
錢ノ利息地代家賃等ノ如キ私有品ニ由テ生スル  
所ノ利潤ハ全ク其趣ヲ異ニシ其主人ハ嘗テ心力  
ヲ用ヒス何等ノ功勞ナシト雖、其物品ヨリ自カ  
ラ利ヲ生ス可シ都テ私有品ヲ貯レハ其人ハ何人

タルヲ問ハス其物ハ何品タルヲ論セス唯其物ヲ  
用ルニ由テ錢ヲ得ルナリ  
開化ヲ被リタル國ニ於テハ私有ニ屬スル利潤ハ  
必ス其主人ニ附與セリ其法公正ニシテ且巧ナリ  
ト云フ可シ前既ニ論セシ如ク私有ノ産ハ産ヲ起  
シタル本人ニ屬ス可ク又其本人ヨリ之ヲ他ニ與  
フレハ則チ又其人ノ私有ト爲ルカ故ニ其私有ニ  
由テ生スル所ノ利潤モ本ノ私有ト共ニ歸スル處  
ヲ同ス可キノ理ナリ若シ然ラサルハ私有モ甚  
ク貴トスルニ足ラスシテ自カラ之ヲ得ニカ爲勉

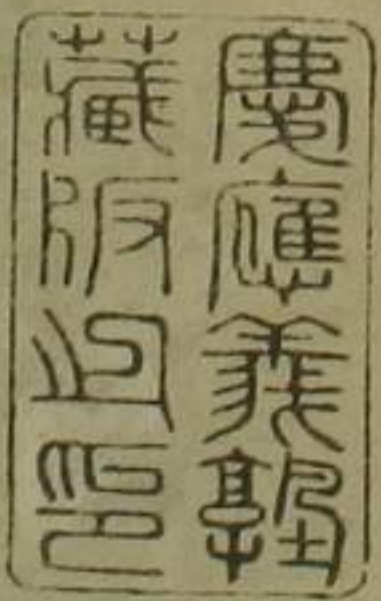
強スル者少ク遂ニハ國益ノ基本タル人生ノ勤勞  
ヲ衰ヘシムルニ至ル可シ抑私有ニ由テ生シタル  
所ノ利潤モ元人爲ヲ以テ人ニ奪ヒシモノナラハ  
之ヲ其主人ニ附與セシトスルハ理ニ當ラサルニ  
似タレ氏其生スルヤ決シテ人爲ニ非ラス恰モ天  
然ノ理ヲ以テ私有ナルモノハ實ヲ結ビタルナリ  
然ハ則チ誰カコノ實ヲ取ル可キヤ其私有ノ主人  
ニ非ラサレハ他ニ其人ナカル可シ  
地代ハ一種ノ利潤ニテ自カラ一種ノ事情アリ凡  
ソ世上ノ私有品ハ其品物ヲ用テ又從テ心力ヲ勞

シ以テ其物ノ品位ヲ増スト雖氏地面ニ於テハ然  
ラズ地主ニ一毫ノ功勞ナクシテ俄ニ地代ノ騰貴  
スルヲアリ蓋シ其故ハ人口増加シ耕作ノ業盛ナ  
ルニ由テ然ラシムルモノナリ譬ハ一島アリ  
リテ島ノ沃土ノミニ産スル穀物ニテモ島ノ人口  
ニ陪ヲ養フ可ク其瘠地ヲモ耕サハ三陪ノ人口ヲ  
養フ可キ片ハ其島ニ居テ地面ヲ所持スルトモ嘗  
テ其品位ナシ之ニ反シテ島ノ人口次第ニ増シ良  
田ノミヲ耕ス片ハ僅カニ其人口ノ食ヲ給スルノ  
ミニテ少シモ餘ナケレハ漸ク瘠地ヲ求メテ耕ス

者アリ人口尚又増加シテ初々ハ三十「シ」ル「ン」グ  
ノ以テ一俵ノ麥ヲ買ヒシ者モ四十「シ」ル「ン」グヲ  
投シテ之ヲ買ハントスルニ至レハ人皆争テ薄田  
瘠地ヲ求メ耕作ヲ業トスル者日ニ多シ然ルニ瘠  
土ヲ耕スト沃土ヲ耕ストハ其勞逸甚々異ナリト  
雖氏産ミタル麥ノ價ハ同様ナルカ故ニ人皆金ヲ  
出タシテ沃土ヲ耕サンコトヲ好ム可シ是即チ地主  
ニ一毫ノ勞ヲクシテ利潤ヲ得ル由縁ナリ  
故ニ地面ヲ買テ其地ニ品位ヲ増ス片ハ必ス利潤  
ナカル可ラス所謂地代ナルモノ是ナリ地代ノ利

人爲國法ヲ以テ定メタルモノニ非ラス天然  
 ノ然ラシム所ニテ猶水ノ低ニ就クカ如シ國法ノ  
 主宰ハ唯其地面ノ主人ヲ定メ其授受賣買ノ規則  
 ヲ正タスノミ抑些少ノ功勞モナクシテ地代ノ利  
 潤ヲ一人ニ附與スルハ理ヲキニ似タレバ其來ル  
 所ヲ尋レハ元人ノ物ヲ奪ヒシニモ非ラス亦他人  
 ノ力ヲ勞役セシニモ非ラサレハ前條ニモ記載セ  
 ル道理ニ從ヒ之ヲ其主人ニ與フルヲ以テ至當ノ  
 處置トナセリ  
 西洋事情外篇卷之三終

慶應義塾藏梓



西洋事情 福澤諭吉著

全三冊

條約土國記 福澤諭吉著

全一冊

同 二集三集

近刻

西洋衣食住 片山淳之助著

全一冊

同 外編

全三冊

英文熟語集 小幡篤次郎著

全一冊

同 西洋旅案内

全三冊

華英通語 福澤諭吉著

全一冊

西洋事情外編 卷三

西行實小夕翁 卷三

福澤諭吉著  
蒙訓窮理圖解

全三冊  
脫稿近刻

小幡篤次郎著  
天變地異

全三冊  
脫稿近刻

# 不許僞板

## 書

京都 出雲寺文次郎

大坂 伊丹屋善兵衛

尾陽 永樂屋東四郎

勢州津 篠田伊十郎

出雲寺萬次郎

東都 内野屋彌平治

岡田屋嘉七

## 肆



